

オーライ！ニッポン会議 代表・副代表から地域の皆様へのメッセージ

日本を心身ともに
健康な国に！



都市と田舎の関係は、個人でいう頭と体の関係になります。まずは身近なところから、都市と田舎の交流を進めましょう。

養老孟司代表
(東京大学名誉教授)

農山漁村文明は
新時代の潮流



自然を搾取することになんらの倫理的規範を伴わない都市文明から脱却し、いのちが輝く生命文明のあり方を農山漁村に学びましょう。

安田喜憲副代表
(東北大学大学院教授)

地域の文化を
語り伝えていただきたい



祭り、匠の技、郷土食・・・農山漁村は伝統文化の宝庫。地域の皆さんには、多くの人に語り伝える広報マンになっていただきたいと思ひます。

平野啓子副代表
(語り部、キャスター、大阪芸術大学放送学科教授)

オーライ！ニッポン（都市と農山漁村の共生・対流）とは？

都市と農山漁村に住む双方の人々の交流を盛んにし、「人・もの・情報」が絶えず循環する社会を生み出すことで、ゆとりのある生活の実現や日本経済の再生をめざす国民運動。キャンペーン名の「オーライ！ニッポン」は、都市と農山漁村を人々が活発に「往来」し、互いにメリットを受けることで日本が all right（健全）になることを表現しています。

具体的な取組の一例



効果

地域の活性化 コミュニティの維持 教育的効果 起業化や雇用の促進 観光や地場産業との連携
国土や環境の保全 農林漁業の振興 伝統文化の継承 食育 交流人口や定住者の増

募集要領と応募用紙

「オーライ！ニッポン会議」のホームページ（<http://www.ohrai.jp>）からダウンロードできます。ホームページは「オーライ！ニッポン」で検索すると簡単にホームページを見つけることができます。インターネットに接続できない方には、ファックスまたは郵送でお送りしますので、事務局までご依頼ください。

応募先
お問合せ **オーライ！ニッポン大賞事務局**

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町 45
神田金子ビル5階 まちむら交流きこり内
Tel03-4335-1985 Fax03-5256-5211
<http://www.ohrai.jp> e-mail:info@ohrai.jp



第10回
オーライ！ニッポン大賞

募集中！

平成24年9月25日(火)締切

詳しくはWEBで

オーライ！ニッポン

検索

東日本大震災や豪雨などの災害から、都市との交流を通じて復興を目指す取組も表彰の対象となります。

オーライ！ニッポン大賞 都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組を表彰。個人でも団体でも応募できます。団体は法人格の有無を問いません。

学生・若者カツヤク部門

主に30代までの若者の活躍により推進されている活動。



都市のチカラ部門

主に都市側からの働きかけによって推進されている活動。



農山漁村イキイキ実践部門

主に農山漁村側からの働きかけによって推進されている活動。



大学、小中高校、子ども会、クラブ活動、サークル、ボランティア組織、学生ベンチャー、NPO等



都市側の企業、NPO、ボランティア組織、町内会、市町村等



農山漁村側の企業、NPO、農林漁業者の団体、ボランティア組織、自治組織、市町村等

グランプリ（内閣総理大臣賞（申請予定）） 1件 副賞20万円相当

オーライ！ニッポン大賞 3件程度 副賞5万円相当 審査委員長賞 数件 副賞3万円相当

ライフスタイル賞 数件 副賞3万円相当

UJ1ターンにより都市部から移住するなどして、農山漁村地域で魅力的なライフスタイルを実践している個人を表彰。

たとえば・・・

- ・交流イベントや古民家活用等を通じて、移住者や交流人口の増加に貢献している人。
- ・農山漁村の地域資源を活かして起業（民宿、レストラン、体験ビジネスなど）している人。



主催：オーライ！ニッポン会議、農林水産省 協賛：財団法人都市農山漁村交流活性化機構
後援（予定）：総務省、文部科学省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、環境省、
一般社団法人日本経済団体連合会、全国知事会、全国市長会、全国町村会

オーライ！ニッポン大賞 都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取組を表彰。

グランプリ (内閣総理大臣賞) (財)新治農村公園公社 (群馬県みなかみ町) **イキイキ実践**

公社が推進する「たくみの里」事業は、農村集落に残る歴史文化、伝統手工芸(わら細工や竹細工)、食文化等の技をもつ人々を活用した体験施設を4集落に配置し、現在は様々な技をもった匠が定住し、24の異業種工房が交流の拠点となって体験型農村観光を実現している。

また、群馬県内の町村として初の景観条例を制定して農村景観の保全に取り組んでいる。また、高齢者農業の多品目生産を含む地域農業の振興として、「年金プラス60万円」を目標に、農産物直売所「豊楽館」を設立。これらの活動を27年にわたって継続し、年間の売上約3億4400万円、年間40万人が訪れる群馬県最大の農業観光地となった。



都市のチカラ 東京海洋大学産学・地域連携推進機構 (東京都港区)

当機構は食・水産・海洋の産業分野に関する産業・地域・大学等研究機関の出会いの場。地方産品を都市で消費する「地産都消」に向け、大学祭にて産地と消費地が直接顔を合わせる「水産都市フェア」を開催。(株)ぐるなびと連携した「ふるさと食材活用セミナー」は、首都圏の飲食店シェフが地域の水産物等を活かした新メニューを開発し、その普及を通じて地域水産物の消費拡大と飲食店の独自性の創出につなげている。



若者・学生カツヤク かしも木匠塾 (岐阜県中津川市)

建築を学ぶ大学生が、夏休みを活用して地元の大工や職人から伝統的な木造建築を学ぶ取組み。地元から依頼される木造建築物(バス停や小屋など)を、企画から設計・施工まで学生主体で作り上げることにより、建築のノウハウを学ぶ。農作業体験など地域の人々との交流も多く、第二の故郷として再訪する学生や、地域に就職した学生もいる。活動は21年の長期間にわたり継続され、他の地域にも活動が派生し、現在全国8か所で実施されている。



イキイキ実践 (社)伊江島観光協会(沖縄県伊江村)

伊江村は人口5千人弱の離島。島には高校が無く、進学のために島を離れた子どもたちの空き部屋を活用したいと、島を訪れる修学旅行生に宿泊体験を提案する実験を平成15年に開始。「おかえりなさい」で受け入れた修学旅行生は家族の一員として生活を共にし、「いってらっしゃい」と送り出される。まさに第二のふるさとづくり。民泊の受入は129軒。年間の受入実績は170校、約2万3千人(23年度)。経済効果は島全体で約2億円。



イキイキ実践 OH!! 鰯 元気隊 (青森県大鰯町)

子どもの郷土愛を醸成する「ふるさと教育」として、地元大鰯小学校の5、6年生が、野菜ソムリエに学びながら大人たちと一緒に野菜づくり。秋には東京で販売体験とアンケート調査、夜のパーティーでは百貨店のバイヤーやフードジャーナリスト等を相手に手づくり名刺で町をPR。



イキイキ実践 NPO遠野まごころネット (岩手県遠野市)

東日本大震災で大きな被害を受けた沿岸地域の支援のため、全国から集まるボランティアに対し、遠野市を活動拠点とすることを提案。被災地とのコーディネートやボランティアバスによる送迎を実施し、10万人を超えるボランティア活動を支援。農林漁業の支援と観光を組み込んだツアーも。



イキイキ実践 東沢地区協働のまちづくり推進会議 (山形県川西町)

東京都町田市を対象に山村留学を実施。21年間で4泊5日の短期留学は635名、原則1年間の長期留学は42名を受入れ。町田市の保護者を中心に「まちだ夢里の会」が設立され、その会員の紹介で首都圏のおにぎり専門チェーン店とご縁ができ、特別栽培米の取引へと発展させている。



都市のチカラ 三菱地所株式会社 (東京都千代田区)

山梨県北杜市で活動するNPOと連携し、棚田での田植・収穫や間伐等の体験プログラムを年間約10回実施。3年間で延べ730人が参加、7,000㎡の遊休農地を再生。地元醸造会社との協働で純米酒「丸の内」を開発。関連会社の2×4住宅の構造用部材に山梨県産の間伐材を使用。



若者・学生カツヤク 島根県立浜田水産高等学校 (島根県浜田市)

新商品の開発、PR、食育等を展開。生徒が開発提案した商品を企業が製造販売。2年間で16万本を売り上げた「ノドグロふりかけ」などヒット商品が次々誕生。県内外でのPR販売や、生徒が「先生」となる食育出前授業を通じて、郷土愛や自覚が育まれ、漁業や水産業への就業率も高い。



イキイキ実践 NPO霧島食育研究会 (鹿児島県霧島市)

地域住民が家庭料理を持ち寄る「霧島・食の文化祭」を開催し、レシピ集を取りまとめて実費配布。高齢者を講師に迎えて郷土料理を学ぶ「レシピのない料理教室」は、これまでに延べ7百名が参加、100種類以上の料理を作成。食文化の発掘を、地域への愛着と誇りの醸成につなげている。



オーライ！ニッポンフレンドシップ大賞

オーライ！ニッポン大賞の趣旨に合致しているとして連携表彰事業から推薦された案件から選定。

イキイキ実践 NPO体験村・たのはたネットワーク (岩手県田野畑村)

通過型の観光地からの転換をめざして体験型観光「番屋エコツーリズム」を推進。昔ながらの漁村の暮らしを活用した体験プログラムを整備。とくにサッパ船とよばれる小型漁船で景勝地「北山崎」の200メートル続く断崖をめぐる「サッパ船アドベンチャーズ」が好評で、平成22年度は年間4,880人が利用。教育旅行の受入も推進(21年度8校、22年度4校)。東日本大震災の津波被害により、漁船や番屋を含む体験施設や資材が流出。幸い人材は無事で、7月末にはサッパ船を調達し、「アドベンチャーズ」を再開。被災集落を地元ガイドと共に歩いて震災の話や防災教育プログラム「大津波語り部&ガイド」や、一軒も残らず流出した番屋群の再生プロジェクトを開始した。



イキイキ実践 みやこだ自然学校の会 (静岡県浜田市)

都市郊外で築120年の古民家、田畑、雑木林などを活用し、里山の懐かしい風景を再生しながら、自然体験、農林漁業体験、環境教育、環境保全の4つを統一したプログラムを年間100回以上実施。



若者・学生カツヤク 愛媛大学 (愛媛県松山市)

農学部の学生主体の「都会と田舎を結ぶ食育ネット」は、「都会の子供たちに豊かな心を育む」ことを目的に田舎体験事業を実施。内子町の夏のイベントから始め、現在は南予全域での四季の活動へと発展。



イキイキ実践 (社)南紀州交流公社 (和歌山県白浜町)

白浜町日置川地区で、森林、里山、川、田畑等を活用し、60を超える「ほんまもん体験」のプログラムを整備。20年度から教育旅行の受入を推進し、民泊家庭100軒超、22年度の受入実績は17校。



若者・学生カツヤク 高知工科大学 (高知県香美市)

札幌学院大学、法政大学、沖縄大学とともに高知県梶原町でインターンシップを開催。約10日間の滞在中、畑の草刈などの体験に加え、若者定住に向けて地域資源の発掘と資源活用策を検討し、町と町民に提案。



ライフスタイル賞

農山漁村で魅力的なライフスタイルを実践する個人を表彰。

小栗美恵さん (北海道千歳市)

結婚を機に農家の嫁として北海道へ移住。イチゴの摘み取り観光農園、農産物の加工販売、農業体験、民泊受入、農家レストラン、アイスクリーム製造販売など活躍。農家のお母さん7名でケータリングのグループを結成し、地域の魅力をPR。



桶谷敦さん (宮城県石巻市)

定年退職後に故郷の網地島にUターン。島のお年寄りが島外の子供たちに島の遊びや郷土料理を教える「あじ島冒険楽校」、仙台市内の児童養護施設の子供たちを対象にした「網地島ふるさと楽校」を行政に頼らず自主的に継続。震災の影響は大きい活動再開を目指す。



前田アイ子さん (愛媛県愛南町)

愛南町出身。地元の養殖漁家に嫁ぎ、漁業に携わる一方、漁協女性部にも積極的に参加。規制緩和を活用して漁家民宿を開業、愛南町グリーン・ツーリズム推進協議会の主要メンバーとしても活躍。「地域の子供は地域が育てる」を目標に地元小学生の体験・宿泊の提供も。

